

就任の挨拶

奥山 葉月

白頃、当センターへのご理解とご協力、誠にありがとうございます。
休業させていただいておりましたが、9月より復帰させていただき、
再度、理事長に就任させていただくこととなりました。
就任のご挨拶に不向きかもしませんが、少し私ごとに触れさせてい
ただきます。休業の理由は妊娠、出産によるものでした。その経験のな
かで、出産した大学病院や、出産後お世話になっている地域の小児医療
機関、その他関わりを持った市内の子育て支援やサークル、保育園など、
そこから人に関わるという組織、職員、サービス、対応について多くを
感じ、学ばせていただきました。
今後はその学んだことを活かし、障害者が地域で社会の一員として暮らす
ことを目指すことは運動体としてこれまで以上に行ない、相談支援、
サービスを提供する団体として、利用するみなさんが暖かく迎えられ、
安定したサービスを受けることで、安心して就労や地域生活、地域
活動など自己実現できるよう、相談支援、サービスを行なってまいり
たいと思います。
今後とも何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

相談業務

ホットライン たいおう かみはんき そうだんぎょうむ にゅういんじ かいじょりょうちょうせい たちかわし しがいきんりん てんきょ
H-Lで対応した上半期の相談業務のなかに、入院時の介助利用調整と立川市や市外近隣への転居
きぼうしゃ と あ 希望者からの問い合わせがありました。

入院時の介護利用調整については、本人のニーズを元に、通常の生活とは異なることによって必要となる、入院中の環境整備や看護体勢をH'Lが把握し、障害福祉課へ報告します。障害福祉課では報告した中身やケースワーカーが直接訪問するなど、本人の状況を加味して個別に介護利用が決定されます。決定された内容を本人へお伝えし、介護利用内容を派遣事業所に連絡し、調整を行ないました。

転居希望者からの問い合わせについて、年金や手当、介護、補装具などに関わる制度の説明を行ない、障害のある方への理解がある不動産屋に関する情報提供を行ないました。

その他事業

じりつしんきょうきかい せいかつせんきんぶかい ひづ こべつしえんけいかく さくせい さい けいかく な かた しえんきかんどう
自立支援協議会の生活専門部会では、引き続き個別支援計画を作成する際の計画の立て方や支援機関同士の連携を取りやすくするために方法を検討しています。今年は、関係機関の皆様にお越しいただき、作業所やグループホーム、相談支援機関の事例報告会を行ないました。その際、各関係機関からも状況や感想をお話していただくことができました。今後もこういった集まりを定期的に行ない、意見交換を行なうなかで支援機関同士のつながりをさらに作っていきたいと考えています。

その他に生活専門部会では地域の派遣事業所と協力し、11月の障害者週間に合わせ、重度訪問従事者研修会を開催することが決定しています。

立川市では今年度も独自の障害者週間を11月24日(水)~30日(火)と定め、障害福祉課と福祉ホットライン、地域生活支援センターパティオが中心となり、11月22日(月)~28日(月)まで立川市女性総合センター「アイム」のギャラリー(1階)にて障害の啓発イベントを行ないます。

内容は以下を予定しています。後日、市報への掲載や関係機関などへチラシをお配りして詳細を周知させて頂きます。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。お待ちしております。

ないよう
内容 :

100

パネル展示

「福祉制度の一覧」「福祉マップ」など障害者福祉に関わる様々な情報を分かりやすくまとめたパネルを展示します。

福祉機器の展示、試用

リフトやコミュニケーション機器などを展示。専門相談員や業者による福祉機器の相談や試用もできます。試用をご希望の方は、事前にお問い合わせください。

しゅっしゅうまどぐちそうだん 出張窓口相談

田張忠吉相談 しょうがいふくし かしょくいん ふくし そうだんいん (ピア・カウシヤー)

障害福祉訴職員や、福祉ソフトウェアの相談員（
パニイオ相談員（精神専科士）がお話を伺います

ハティオ相談員（精神相談員）

時間：障害福祉課職員
ふくし

福祉ホットライン or パティオ相談員 14~16時

パンフレット・作品展示や映像による、市内福祉団体の紹介

福祉機関・団体のパンフレット、作品の展示や活動紹介を行ないます。

車いす・アイマスク体験

障害のある人の生活を、少し体験してみませんか？



(つるその 鶴園 まこと 誠)

地域生活支援センター パティオ 2010年度上半期事業報告

パティオは、今年度も相談支援事業と地域活動センター型の2つの事業を行なっています。登録状況としては、現在85名の方が登録されています（男性47名、女性38名）。プログラム利用は45名の方が登録されています。

昨年度は、作業所や就労を目指す方に「お茶の子ハイサイ」というアセスメントを目的としたプログラムをスタートいたしました。今年度は「出るdayプログラム」と名づけ、外出や人との交流にハードルを感じている方にも気軽に参加いただけるプログラムを開始しました。ご紹介させていただきます。

<出るDayプログラム>

今年の6月より奇数週の火曜日に、新プログラムとしてスタートしました。それまでになっていた「Tea Time」をリニューアルしたもので、なかなか自宅から外出できず、パティオに来所することが難しい方、対人関係が苦手な方が「ちょっと、行ってみようかな」と思っていただけるようなプログラムを目指しています。

これまでの「Tea Time」と同様に、プログラムの中にスタッフがいる事で安心して来所でき、ちょっとした相談が出来る要素を残しつつ、気軽に話が出来る空間を目指しています。

プログラムの内容として、塗り絵、粘土などの手芸、トランプやウノなどのゲームを用意しており、活動を通してコミュニケーションを図ったり、このほかにも持参した編み物をする方や読書をする方など、自分の調子に合わせた参加をして頂いています。プログラムが始まり3ヶ月ほど経った現在では、「Tea Time」の時から参加をされていた方や、自宅に引きこもりがちで、来所できずにいた方が、このプログラムを利用することで、来所回数が増えた方も出てきています。



<普及啓発>

2010年度の上半期の活動は、ピアサポートりらくの病院訪問活動の支援、明治学院大学への講演会講師、教育委員会の教員研修参加、パティオ土曜プログラム「マナブとケイコ」の中で外部講師をお招きしての地域交流を行ないました。

その他、精神保健福祉士や看護師を目指される、実習生の受け入れも行ない、精神保健福祉士実習生はルーテル学院大学、武蔵野大学より各1名。看護実習生は杏林大学より2名の学生の受け入れを行ないました。今後も普及啓発にさらに力をいれていく予定です。

<自立支援協議会>

今年度より、立川市では自立支援協議会の中に精神専門部会が立ち上りました。これまで、生活専門部会と就労専門部会の2つが協議会として取り組みを行ない、パティオは生活専門部会に参加していました。今年度からは、精神専門部会が立ち上がりパティオも委員として活動しています。上半期は、自立支援法による施設移行立川市の精神保健福祉の社会資源紹介としてパンフレット作成しました。パンフレットは、立川市障害福祉課、パティオなどの福祉施設、医療機関に配布されていますので、お気軽にご覧下さい。（久木野 明日香）

就労支援部門 《立川市障害者就労支援事業》

新規利用登録者は11名で、知的障害8名、精神障害2名、身体障害

1名でした。就職件数は14件、離職件数は3件(うち2件は転職)でした。特別支援学校新卒者は、武藏台から4名、羽村から2名、計6名の方を受け入れ、定着支援を行なっています。

また、初めて障害者を雇用される事業所から支援依頼がありました。2名の知的障害者を同時に採用されるということで、入職前の準備や採用後の支援などを他市の就労支援センターや障害者職業センターと連携しつつ支援を行ないました。最近はこのように、複数の関係機関との連携を前提に事業所に対する雇用前の準備から支援を行なうといったケースが増えています。当センターとしても、事業所への支援スキルのレベルアップが求められているところです。

定着支援における、いくつかの例をご報告します。精神障害の方で一時体調を崩し休職しておられた方の復職支援や、また精神不調のため出勤が不安定になっていた身体障害の方(在職登録)の安定出勤を目指した支援、小売業の事業所の都合で他店に異動になった知的障害の方の支援などを行ないました。また、直近の例では、残念なことですが、充分定着していた知的障害の方が勤める事業所の閉鎖が急に決まり、ハローワークとも連携を取りつつ、離職調整を行なうことになったケースもありました。

当センターとしては、ご本人や事業所の状況の変化に合わせて、タイムリーな定着支援を行なうよう努めています。どのケースも、1つ1つが非常に重要な内容で、新規就職件数としての実績にはなりませんが、継続的な支援の必要性が強く感じられるものばかりでした。

また新規の利用相談においては、精神障害の方や発達障害の方のご本人やご家族、医療機関を含めた支援者の方からの支援依頼のご相談を頂くものの、生活の安定感やご本人の障害受容、病状の安定、職業準備性といった点で、当センターとしては、就労支援のできる状態にないと判断し、ご利用を見合させて頂くケースが、いくつかありました。相談に来られた方々には、ご期待にそえず大変申し訳なく思います。ただ、ご本人にとって必要な支援と当センターで提供できる就労支援の内容がかみ合っていないと、その後就職に向かって進んでいくことは難しいことも事実です。

利用前の相談において、当センターの支援の内容や考え方、実状を丁寧にお伝えし、充分なご理解を頂くことが大切と考えています。また事前相談のなかで、当センターから適切と思われる他のサービスをご紹介させて頂いたり、ご利用の前に具体的に準備して頂きたい点をお伝えし、それが整った段階で改めてご利用の相談を承るといったご提案などもさせて頂いております。実際にそのような経過を踏んだ後に、当センターをご利用頂き、就職に結びついている方もおられます。ご利用に当たっては、こうした点についてご理解を頂いたうえで、ご相談頂けると幸いです。

就労支援に関する連携については、就労移行支援事業を実施されている施設から障害者を紹介してほしいといった、お話を頂戴することが何度かありました。就労支援センターで関わる方たちの中で、準備訓練が必要という方を紹介してほしいというもので、移行支援事業を行なう施設としては2~3年で利用者を卒業させていたくため、安定的な利用者の人員確保が問題となっているということでした。当センターとしては、移行支援事業所を卒業される方の支援依頼の増加を懸念していましたが、現状では立川市においては施設からの支援依頼は殆どありません。自立支援法の廃案・見直しが行なわれていなくなで、経過を見守って対応していきたいと思います。

(井上 貴央)

ちょうないしょくばじゅうじぎょう

庁内職場実習事業について

今年度も市からの委託で6月から毎月1回（1回につき4日間）実施しています。メインの作業は前年度同様リサイクル紙の回収・再利用可能な紙の仕分け・廃棄ですが、5月に新しい厅舎へ移転したため、リサイクルボックスの設置箇所を確認するなど一から準備を行ないました。

実習内容も前年度の反省をもとに、働くための意識付けや職場のマナー・コミュニケーションに力を入れるものに変更しました。朝礼時に身だしなみチェックや「オアシス練習」を入れたり、毎日目標を設定して、終礼時に振り返るなど、就職のための課題確認に重点をおいています。また、1日の実習時間も10時～16時とし、1時間増やしました。

作業としては、リサイクルボックスの数が減ったこともあり、パンフレットや封筒へのシール貼りなど、事務系の軽作業を増やしています。

今年度下半期には地域の福祉施設からの実習生受入れを課題としており、どういう形で周知し、参加していただくか、これから具体的に検討することになっています。地域の連携を構築していく取組みへのご協力をよろしくお願ひいたします。

たの かいほうこく お楽しみ会報告

主に知的障害の方を対象とした親睦会「お楽しみ会」の今年度第1回を6月25日(金)18～20時、柴崎学習館で開催しました。今回のテーマは「働くための体づくりとリラックス」ということで、講師として東京都多摩障害者スポーツセンター（略称 多摩スポ）健康スポーツ相談員の小峰久美さんにお越しいただきました。

34名の参加者があり、食事をしながらの自己紹介の後、講師のお話をうかがいました。体力づくり、肥満・生活習慣病予防など、適度な運動が働くために大切なこと、運動というと、スポーツジムに行ってハードな運動をすると思いがちですが、毎日の生活や通勤の中でも簡単にできること（例えばエスカレーターに乗らず階段をのぼる）など、とてもわかりやすいお話をでした。

後半では、実際に座ったままで手をあげ、体側を伸ばすストレッチをしたり、足踏み運動をしたりと、簡単なリラックス体操を教わり、全員でチャレンジしました。日ごろから運動をしている人は少なく、どちらかというと肥満傾向の人が多いため、今回の企画はとても参考になるものでした。スポーツの秋。継続的に働くための体調管理に役立ててもらいたいと思います。（白部 貴子）



みんなでストレーチ！



名札授与式で訓示をいただく



再利用可能な紙の仕分け

知的事業 2010年度上半期事業報告

自立生活センター・立川では、内山綾子さんと泉口哲男さんにご協力頂き、同じ知的障害のある仲間に向けた情報提供や、プログラムの実施などの活動を行なっています。

【みんなでなかよくでかけよう～神代植物公園・深大寺～】2010.5.22実施



日頃、なかなか行く機会のない場所へみんなで出かけ、新しい発見をしたり、活動の幅を広げてもらうことを目的とする「おでかけプログラム」を行ないました。プログラムでは、出かけるだけでなく、絵を描いたり、ゲームをするなど、参加者同士の交流をはかる時間も用意しました。参加者からは、「楽しかった。他の場所にも行ってみたい」との声が上がりました。

【うっちょい散歩～立川市役所新庁舎編～】2010.6.18実施

街の中で不思議に思うことや気になること、分からぬことを出発点に“うっちょい散歩”と名付けてその疑問点などを調べています。今回は5月に引越しを終えたばかりの新しい立川市役所を取材し、記事にしました。

立川市役所の人に聞いてきました！

Q. 前の市役所とどこが変わりましたか？

A. 広くきれいになって、今まで別々の場所にあつたいろんな課が一つになったから、仕事がしやすくなった。エコを心がけているからエアコンの温度が高めで暑い。



Q. どこにいったらいいかわからないときは、どこに聞けばいいですか？

A. 総合案内へ行くと、番号で教えてくれる。

(うっちょい散歩～立川市役所新庁舎編～より抜粋)

【うっちょいとゆかいななかまたち】2010.8.28実施

今まで内山さんのプログラムに参加してくれた方同士の交流を深めるため、交流会プログラムを行ないました。内容は、みんなで餃子を作ったり、ダンスをしたり、“リーダーの内山さんについてどう思うか”など、テーマを決めてお話ををするというものです。餃子は簡単に楽しく作れるよう、100円ショップで売っている簡単に具を包める道具を使いました。作り方は内山さんが中心となって、参加者に教えました。参加者からは「餃子を作るのが初めてで不安だったけど、教えてもらったら、おいしくできてよかったです。」という声や、「今まで参加したプログラムの中で、一番よかったです。」という感想を頂きました。(栗田 衣里菜)



じりつせいかつぶ
自立生活部 2010年度上半期セミナー・イベント報告

西武立川駅周辺 まちづくり計画について～バリアフリーの視点から～

立川市は平成20～22年度、東京都より「ユニバーサルデザイン福祉のまちづくり事業」の指定を受け、西武線西武立川駅と駅周辺の改修や開発を進めています。特に駅舎の改良はエレベーターや多目的トイレの新規設置といったバリアフリー化がメインとなるため、障害のある人などに向けた具体的な計画説明会が必要であると考え、8月3日にセミナーを行ない、障害のある人や地域の自治会のメンバーなど21名の方にご参加頂きました。

当日は、立川市の担当課であるまちづくり調整課・道路課・福祉総務課より6名、また西武鉄道より4名の講師の方をお招きし、お話を伺いました。

前半は、設備面についての説明を講師の方よりして頂きました。車いすでも券売機に近づきやすいようなきっぷ売り場、有人改札などへの誘導ブロックや筆談器の設置など、バリアフリーの工夫がいくつも挙げられました。また、駅員による人的サポートもできる限り対応頂けるとのことでした。

後半は、この事業の特色でもあるソフト面でのバリアフリー計画に向けての提案のためのグループワークを行ないました。「駅を中心とした地域のバリアフリーマップづくり」「作業所やシルバー人材センターの方と花を植える機会を」など様々な意見が寄せられました。23年度より本格実施となるソフト事業の計画に関わっている社会福祉協議会の方からは「ソフト事業は行政ではなく市民が主体となってやるものなので、協力して進めていってほしい」とメッセージを頂き、参加者の皆さんも今後の活動に向け意欲的でした。

これからも、立川市のまちづくりに向けて活動を続けていきたいと思います。(廣瀬 麻美)



まちづくり調整課 小倉課長からの説明

防災プログラム - 防災イメージトレ大作戦その2 -

平成22年8月25日(水)地域の障害当事者を対象に、「帰ってきた!!防災イメージトレ大作戦その2～もっと生活に“安心”を～」を開催しました。

当日は5名の参加者に加え、立川市災害ボランティアネットワークの方々にも来ていただき、障害のある方がどう防災を考えていくかを知りたい機会となりました。

今回の防災プログラムはタイトル通り、前回好評だったイメージトレーニング(自黒巻き)を中心に、時間をたっぷり取って「日常生活で起きた想定」から時刻の経過までを考え、その中で「やっておけばよかったこと」をそれぞれ検討しました。さらに、「やります！コミットメント」を参加者から言ってもらい、防災への準備や取り組みをそれぞれに宣言してもらいました。



いざというときのことを考えると、何から手をつけてよいか分からず物品の購入に止まってしまいがちですが、このようなイメージトレーニング(目黒巻き)をおこなうことで、自分の生活(居る場所や環境など)から必要な防災対策を具体化することができたと思います。これからもまた違った視点から防災プログラムを行ないたいと考えています。(大石 幸治)

「目黒巻き」とは…自黒教授が考えた、災害がおこった時の状況を自分自身の問題としてイメージする方法です。

きかく すいじょう かぜ かん クルーズ企画「水上の風を感じよう！」

去る9月17日、雨天翌日の中止を除く晴天に恵まれ、8名の車イスユーザー・全盲・弱視・知的障害を持つ仲間達と、バリアフリー水上バス「ヒミコ」でお台場から浅草まで約1時間弱のクルーズに行ってきました。



こうじゅう
工事中のスカイツリー

車いすスペースが船の後方部に位置しているため、モーター音が少し気になりましたが、乗船時の安定したスロープ、船内に設置されている広い多目的トイレなど、とても快適なクルーズでした。

今回、水辺の景色も楽しみの一つでしたが、弱視の仲間から教えてもらった楽しみ方を皆さんにも紹介します。彼女は目の間近のものなら自分で見ることができます。当日デジカメで撮った景色を即席で確認し「うわあー綺麗！」と、その場で1枚、1枚、丹念に覗き込み、本当に楽しんでいらっしゃいました。

また、全盲の仲間からは「自分達は景色を音や風、香りを通して楽しむのよ。」との



ことば もら
言葉も貰いました。

今回のクルーズ企画を通して、障害種別によって多様な楽しみ、楽しみ方が在る事に、障害者の生き強さ！を感じました。

また是非、みんなで楽しく、元気になれる企画を開催したいと思います。 (鈴木 徳子)

新 しん 人 じん 紹 しょう 介 かい

中村 祥子 (パーティオ夕食サービス調理担当)

5月から週1回夕食サービスに来させていただいております。おいしくてほっとできる夕食がつくれるようにしていきたいと思います。お気づきのことがあれば、お声をかけて下さい。よろしくお願ひします。住まいは白野市で、得意料理は家庭料理レベルではあります…。煮物、煮魚、とり肉料理は好きです。



小野 亜希子 (パーティオ)

はじめまして 10月1日から働いています。住まいは武蔵境で、趣味は原付バイクでのぶらっと旅。三鷹生まれの三鷹育ちなので立川の地理もよく分からずドキドキしています(>_<)。分からない事だらけですが、皆さんと過ごす時間や笑顔を励みに頑張りたいと思います！よろしくお願ひします。

